

令和4年度学校経営方針

世田谷区立世田谷中学校
統括校長 前田 浩

1 学校経営の基本となる考え方

中学校教育は、生徒の心身の発達と特性を十分に踏まえて、知・徳・体の調和のとれた発達を促すとともに、他者とのかかわりと多様な経験によって、これからの社会を生き抜いていく力を身に付けさせることが責務である。義務教育の終盤に当たり、小学校との効果的な接続の下、自己の可能性を広げ、将来に対する強い意欲と自信をもたせることが重要となる。

そこで、本校は、人権尊重の精神を基盤として、質の高い教育を実現させるための教育的諸条件（教育内容・教育方法・教育環境など）を整備し、教職員が生徒・保護者・地域の願いを真摯に受け止めながら、厚い信頼が得られる教育活動の展開をめざしていく。

学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた上で、本区の「キャリア・未来デザイン教育」及び「世田谷区教育要領」の重点を活かして、『一人ひとりの多様な個性・能力を伸ばし、社会をたくましく生き抜く力を、学校・家庭・地域が連携してはぐくむ』ことを具現化する学校経営を行っていく。

また、特別支援学級（知的障害、自閉症・情緒障害）の設置はもとより、今年度から開室する不登校特例校分教室の開設の下、生徒一人ひとりの特性に応じた教育を推進する。

2 教育目標

- 自律 自ら考え、判断し、行動できる生徒
- 寛容 違いを理解し、他者を尊重する生徒
- 創造 豊かな発想をもち創意工夫をする生徒

3 学校スローガン

未来につながる実力の世田谷中

4 重点目標

(1) 豊かな知力、総合力を身に付けるために、様々な教育活動を通して、非認知的能力を育成する。

学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとする力を育てていく。日々の学習活動を通じて、生徒が学んだことの意義を実感できるようにする。また、学びに向かう力だけでなく、自己の感情や行動を統制する力、学校生活や人間関係をよりよく形成しようとする態度を育てる。

(2) わかりやすい授業を展開し、主体的・対話的で深い学びを通して、豊かな表現力を育成し、学力の向上を図る。

何をめざし、何ができるようになるのかを明確にした授業を行う。学び合いを通して、物事の捉え方を広げたり深めたりしながら、自分なりの表現の工夫ができるようになることを大切にす。授業では自己選択や自己決定の場面を増やしていく。

(3) キャリア教育の視点に立って、自らの学習や生活について見通しを立てること、振り返ることを積み重ね、キャリア発達を促す。

生徒が夢や希望、目標をもつことを大切にし、その実現のための道のりを考える機会を保障していく。特別活動を要としつつ、各教科・領域で、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を高めていく。

5 重点目標を達成するための指導の重点事項

(1)人権尊重の教育を推進する。

生命の大切さ、尊さについて指導することをすべての教育活動の根幹とする。生徒一人ひとり はかけがえのない存在であり、人権尊重の理念を正しく理解させ、人権に対する正しい知識と態度が身に付くように指導する。多様性を尊重する社会の担い手としての感覚を磨くとともに、いじめは重大な人権侵害であるという認識の下、しない、させない、見逃さない指導を徹底する。

(2)あいさつ・時間・傾聴を基本とした学校生活を作る。

あいさつによる温かな心の通い合いを実感させる。まずは、教職員からあいさつを発することから始め、信頼関係の礎とする。授業を中心とした諸活動は、始まりと終わりの時刻を守ることで、けじめのある日常生活を保障する。また、相手の話を最後まで丁寧に聞こうとする態度を育てる。

(3)授業デザインを明確にする。

授業では、めあてをもち、見通しを立て、振り返りを行う学習サイクルを共通実践する。また、学習の過程で気付いた課題を自分なりの方法で解決しようとしたり、話し合いや協働的な学びで解決しようとしたりして、せたがや探究的な学びを実現させていく。

(4)ICTの有効な活用に挑み、試すことを継続する。

知的好奇心を掻き立てたり、学び合いや教え合いを促したりしていくために、すべての教科・領域の学習の中でタブレット端末の活用に挑んでいく。また、タブレット端末は、個別最適な学びや家庭学習の支援のツールとしても利用を促進する。

(5)言語に関する能力の育成を重視し、思考力と表現力を高める。

学習活動の基盤となるのは、言語に関する能力である。そこで、自分の考えをアウトプットする機会を増やし、学びの充実につなげていく。朝読書や新聞を活用した学習により、自分の考えをもったり、深めたりできるようにする。また、教科日本語では「表現」の学習を重視し、自分の思いを素直に伝えたり、考えを論理的に伝えたりすることができることをめざしていく。

(6)将来への希望と展望をもたせ、キャリアカウンセリングを充実させる。

キャリア・パスポートを活用して、自己の変容を客観的にとらえ、将来に向けた生き方の具体的な目標をもてるように指導する。キャリア・パスポートを教育相談の主たる材料とし、学校と保護者が理解・協力し合いながら生徒の支援ができるようにする。

(7)自律した行動力を高め、他者とのかかわりを通じて自信を深めさせる

学級・学年における指導、委員会活動を通じて、自らの生活を見つめ、自らを律する態度と行動力を培う。学級・学年内、異学年の生徒、さらには地域社会の人々とのかかわりを通して、自己のよさに気付いたり、自己効力感を感じたりできるようにする。

(8)健康や安全に対する行動力を高める

疾病（感染症を含む）や傷害の予防のために、自己の生活習慣や生活環境をよりよくしようとする実践力を高める。安全教育において、想定外の場面設定での避難訓練を計画的に行い、生徒自らが危険を予測し、回避できる行動力を身に付けさせることを重視する。

(9)せたがや11+による幼・小・中の連携を強める

世田谷杜の学び舎内の児童（幼児）との交流場面を創出する。年少者の立場に立った経験により、寛容な態度を育み、学び舎内のリーダーとしての自覚を高めていく。

【めざす学校像】

- 生徒が自分らしさを発揮し、互いに認め合い、自己のよさを伸ばせる学校
- 保護者に安心感と満足感を与え、学校と保護者が協働する学校
- 教職員が、自校の教育活動と生徒の姿に誇りをもてる学校

【めざす生徒像】

- 自ら考え、判断し、行動できる生徒
- 違いを理解し、他者を尊重する生徒
- 豊かな発想をもち創意工夫をする生徒

【今年度の重点目標】

- 豊かな知力、総合力を身に付けるために、様々な教育活動を通して、非認知的能力を育成する。
- わかりやすい授業を展開し、主体的・対話的で深い学びを通して、豊かな表現力を育成し、学力の向上を図る。
- キャリア教育の視点に立って、自らの学習や生活について見通しを立てること、振り返ることを積み重ね、キャリア発達を促す。

4つの方針 8つの方向性 16の取組

学力の保障と健全育成

学びに向かう力を育む学習指導

【めざす方向性】

- ◇ 自分に合った学び方の習得
- ◇ 思考力・判断力・表現力の育成

【取組】

- 学習習慣を確立させ、授業では、めあて・見通し・振り返りを大切にする
- 授業展開に「個別」「協働」を採り入れる
- タブレット端末の効果的な使い方を試す
- 学習ガイダンスの機会を確保する

自律と自信を大切にする生活指導

【めざす方向性】

- ◇ 共通理解と共通実践に基づく生活指導
- ◇ いじめ・不登校の未然防止と早期解決

【取組】

- あいさつを関係づくりの第一歩とする
- 社会生活につながる「最適解」を考える習慣を作る
- 校内外の貢献活動の機会をとらえ、励ます
- 社会におけるきまりの意味を実感させる

一人一人が輝く学年・学級経営

【めざす方向性】

- ◇ 所属感と貢献意欲の醸成
- ◇ 誰一人取り残さない集団作り

【取組】

- 相互のよさや個性を認め合える集団を作る
- キャリア・パスポートで自己を見つめ、成長の実感につなげる
- 必要な特別の配慮を当たり前にする
- 話し合い活動で問題を解決する

活力あふれる特別活動

【めざす方向性】

- ◇ 自治能力の向上
- ◇ 一体感、成就感を味わう学校行事の実施

【取組】

- 所属集団の一員としての自覚を深めさせる
- 生徒が運営する機会を増やす
- 創造性に富んだ生徒会活動を工夫し、実践する
- 本気になる素晴らしさと感動を味わわせる

7 めざす教職員像

学校は、教育目標の達成をめざし、生徒一人ひとりにこれからの社会を生き抜いていく力を着実に身に付けさせることを使命とした組織体である。

VISION（ビジョン）の共有・・・目標と手段を共有する

MISSION（ミッション）の自覚・・・自己の役割と組織貢献の自覚をもつ

ACTION（アクション）の実現・・・社会の要請に敏感になり、生徒のためになることは躊躇しない

【めざす教職員像】

- 豊かな人間性と教育への情熱をもつ教職員
- 自己を高める意欲の旺盛な教職員
- 協力し、助け合える教職員
- 生徒のモデルとなる教職員

(1) 服務の厳正

教職員の非行は、学校にかかわるすべての人々への背信行為であり、これまで積み重ねてきた学校関係者の努力を一瞬にして打ち消してしまう。真の信頼回復には、想像を絶する力が必要であることを肝に銘じる。

①体罰 ②生徒へのいじめ ③わいせつ行為 ④セクシュアルハラスメント ⑤公金公物の横領 ⑥個人情報の不適切な取扱い ⑦職場のコンピュータ不正利用 ⑧秘密の漏洩 ⑨交通事故など、あらゆる非行を根絶する学校風土を築く。特に、生徒への言動は、公平性が保たれ、生徒が安心感と信頼感を得られるものとするのを忘れない。

(2) 質の高い教師力

かかわる教師

かかわりは信頼の第一歩。誰に対しても誠実に。

称える教師

共感する力が生徒の安心を作る。
自己効力感が生徒を伸ばす。

鍛える教師

常にワンランク上を求める厳しさが生徒をさらに伸ばす。

(3) 支え合う教職員

- ①受容と協調の人間関係を基本に仕事を行う。
- ②報告・連絡・相談・確認を大切にす。 (悪い情報ほどスピードと共有が必要)
- ③情報は宝。情報をつなぎ合わせて、核心に迫る。(背景の理解をしっかりと)
- ④課題を1人で抱え込まない。(複数のアイデア、複数の対応で状況打開)
- ⑤真似ることの上手な教職員になる。(身近なモデルから吸収する謙虚さをもつ)
- ⑥時間を無駄にしない。(決めた時間で始め、決めた時間で終わることが次の余裕を生む)
- ⑦危機対応は「さしすせそ」を合言葉に対応する。

さ・・・最悪を想定して **し**・・・慎重に **す**・・・速やかに **せ**・・・誠実に **そ**・・・組織的に

(4) 好感のもてる接遇態度（社会人としての常識的な対応マナー）

【来校者に対しては】

- ①あいさつ、笑顔、声かけを大切に
- ②親切な対応を普通の対応に

【電話の対応では】

- ①ワンコールで受話器をとる習慣を
- ②名乗ることで安心感を与え、顔が見える会話を心がける。
- ③取次ぎは、待たせないことが鉄則

(5) ライフワークバランスの促進

- ①学校が行うべき業務を整理する。
- ②配布文書などの学校統一様式を増やし、全体の文書作成量を減らす。
- ③会議のあり方、必要性を見直すと共に、実施の開始時刻と終了時刻を厳守する。
- ④部活動に関するガイドラインを遵守する。
- ⑤学校組織が機能的、効率的に運営できるよう見直しを継続する。
- ⑥毎月1回以上は定時退勤日を各自が設定し、放課後の活動を行わない日とする。また、8月は校内一斉に定時退勤月間とする。
- ⑦繁忙期も残業は20時終了を最長とし、1か月の在校総時間から勤務時間の総時間を減じた時間が45時間を超えないようにする。
- ⑧夏季休業中と冬季休業中は、1週間以上の連続した休業を保障する。

8 社の学び舎の教育計画

(1) 学び舎の教育目標

- やさしく・・・心豊かにかかわりあい、共に成長し、笑顔の輝く子ども
かしこく・・・自ら学び、よく考え、正しく判断できる子ども
たくましく・・・自己の目標をもち、心身ともにたくましい子ども

(2) 教育目標を達成するための基本方針

- ①小中合同研修会等を年3回以上実施し、各教科等で基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るため、指導内容・指導方法の工夫・改善に努める。
- ②青少年若林地区委員会および青少年梅丘地区委員会と連携して、地域に根付いている行事への参加を推進し、地域活動・ボランティア活動をとおして地域の一員としての自覚を育む。
- ③小中合同の各種連絡会議を各学期に計画的に実施し、連携を深めるとともに、互いに授業や行事に参加・協力し合う活動を充実させる。また、特に特別支援教育において連携を深め、個々の児童・生徒への適切な指導及び支援を行うことができるよう、研究に取り組む。
- ④「世田谷マネジメントスタンダード」を生かした学び舎運営を行い、児童・生徒の資質能力の向上に努める。

(3) 学び舎の取組

- ①小・小連携、小・中連携交流活動（中学校体験授業・部活動体験等）
- ②中学生による小学校6年生への中学校説明会（進路指導）
- ③あいさつ運動（各学期1回実施）
- ④中学校から小学校への授業支援（出前授業、協力授業の実施等）
- ⑤特別支援教育に関する学び舎体制の充実（特別支援教育検討委員会の設置）、小中連携シートの活用

⑥学校行事交流（中学校学芸発表会・作品展示会、小学校学芸会・展覧会等）

⑦地域行事交流（駅伝大会、地域運動会、地域音楽祭、各小学校子どもまつり等）